

## 令和3年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

教育目標 「自ら未来を切り拓く 心豊かでたくましい人間を育てる」 ～希望進路の実現を支援する学校づくりをめざして～

教育方針 1,学力の充実を図り希望進路を実現させる 2,学校行事・部活動を充実させる 3,基本的な生活習慣を確立させる 4,安心できる学校生活を確立させる

## 2 中期的目標 (R3～R5 年度)

## 1 生徒が夢と志を抱き、希望する進路を実現させるための進路指導の確立

(1) キャリア教育を充実させ、生きる意味、働く意味、学ぶ意味を考えさせ、具体的な夢を描かせる。

3年間の進路指導計画を策定し、生徒が主体的に進路実現できるよう指導する。

※学校教育自己診断(生徒)「学校で将来の生き方について考える機会がある」の肯定率90%以上を維持する。(H30:86% R1:89% R2:90%)

(2) 将来の夢への入り口となる進学をめざすために、チャレンジする意欲を醸成し、粘り強く取り組む力を養う。

ア 「行ける大学」ではなく「行きたい大学」への進学をめざす。※国公立大学の現役受験者数 R5年度には40人をめざす。(H30:40人 R1:24人 R2:17人)

※国公立大学及び関西5私立大学(関学・関大・同志社・立命・近大)への現役進学者数をR5年度には100人に引き上げる。(H30:52人 R1:84人 R2:61人)

イ 総合的な探究の時間にキャリアについての学びの機会を設け、自分の希望進路に関連づける。その際SDGsについての理解を深め、国際的な視点でのキャリア感覚も身に付けさせる。

## 2 「確かな学力」の育成とそのための教員の授業力の向上

(1) 自己の進路実現と学力の関連性を意識させ、学習意欲を向上させる。

ア 志望する大学等へ進学するために必要な学力を意識させ、授業第一主義を確立するとともに、家庭や放課後での自学自習を充実させる。

※学校教育自己診断(生徒)「学校の授業は分かりやすい」の肯定率をR5年度には75%以上に引き上げて維持する。(H30:66% R1:69% R2:72%)

イ 論理的思考力・課題解決力・自分の意見や考えをまとめて表現し伝える力を育成する。

※学校教育自己診断(生徒)「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」の肯定率をR5年度には80%以上に引き上げて維持する。(H30:65% R1:71% R2:77%)

(2) 「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざした授業改善に取り組む。

ア 大学入試改革に対応するためだけでなく、社会に出てから求められる力としても重要視し、ICTを活用した効果的・効率的な授業、生徒が積極的にアウトプットする機会を活かす授業の推進を図る。※生徒向け授業アンケートの「授業に興味・関心がある」の肯定率80%以上に引き上げて維持する。(H30,R1:76% R2:79%)

イ 他校での先進事例の視察や、教育センター並びに教育産業等が主催する研修・講演会等への積極的な参加により、新たな指導について研究する。

ウ 教員用タブレットPC導入によりICTの有効活用について研究し、学びの充実を図る。

(3) 資質・能力の育成につながるよう多面的・多角的な学習評価の工夫を図る。

ア 全ての教科で新学習指導要領に対応した、観点別評価による「指導と評価の年間計画(シラバス)」を作成し、評価の方法を確立する。特に「主体的な学び」についての評価方法の確立について研究を深める。

## 3 心豊かでたくましい人間性の育成

(1) 他者理解と多様性を尊重し、鋭い人権感覚を育成する。

ア 生徒が主体的に学べるような感性に訴えるプログラムを提供する。

※学校教育自己診断(生徒)「学校の授業や行事で人権の大切さを学ぶ機会がある」の肯定率80%以上を維持する。(H30:75% R1:82% R2:76%)

イ 学校行事・部活動・ボランティア活動・インターンシップ等への積極的な参加を図る。

※学校教育自己診断(生徒)「文化祭や体育大会は、活発で楽しい」の肯定率85%以上を維持する。(H30:82% R1:86% R2:83%)

ウ 海外研修と海外からの留学生の招聘を実施し、国際交流を通じて多様な文化を体験し国際的な視野を育成する。

(2) 情報リテラシー及び情報モラルを育成する。

ア 情報の授業において、専門家による講演で生徒が加害者にも被害者にもならない対策をとる。

イ 情報社会への対応に備え、情報社会で通用する人材を育成するため、ICT有効利用など教職員の情報に関する指導力を向上する。

(3) 安心できる学校生活を確保し、基本的な生活習慣の定着・改善を図るとともに、規範意識を向上させる。

ア 教員が寄り添いの姿勢で生徒に接し、生徒が相談しやすい指導体制を充実させる。

※学校教育自己診断(生徒)「悩みや相談に親身になって聞いてくれる先生がいる」の肯定率をR5年度には75%に引き上げて維持する。(H30:67% R1:70% R2:73%)

イ 基本的な生活習慣(挨拶、時間、身だしなみ、交通マナー、美化活動、授業態度等)の改善・定着するようにこれまでの取組みを進める。

※年間遅刻数2000回以下を維持する。(H30:2636回 R1:2453回 R2:1783回)

## 4 地域に開かれた学校づくりと魅力ある学校づくり

(1) 本校の教育活動について積極的に情報発信し、地域に活動の理解を広げるとともに、魅力ある学校にする。

ア 学校説明会の実施方法の工夫の一つとして在校生による中学校訪問を定着させ、生徒の成長を発信する。

イ HPの充実を図り、魅力を発信する。

※学校教育自己診断(保護者)「学校のHPは充実している」の肯定率をR5年度には70%に引き上げて維持する。(H30:なし R1:68% R2:67%)

ウ メール配信を定期的実施し、保護者との連携を深める。

(2) 地域との交流・連携を推進することにより、学校を活性化し、学校への信頼を高める。

ア 授業や部活動、生徒会活動などを通して、地域の活動等に積極的に参加し、小学校、保育所など各機関・団体との交流・連携を推進する。

イ 裏山を活用した環境教育を推進し、持続可能な社会の実現に貢献する。

ウ 地域と連携した防災・減災教育の充実を図る。

## 5 校務の効率化

(1) 部活動指導・諸会議など多くの場面で校務の効率化を図り、生徒と向き合う時間を確保するとともに、教職員の健康増進を図る。

※教職員のストレスチェックの総合リスクの値をR5年度には100以下にして維持する。(H30:113 R1:111 R2:111)

(2) 各分掌、学年での年間業務を整理し、働き方改革で勤務時間の縮減を図る。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析

学校運営協議会からの意見

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 [R2年度値]	自己評価
1 生徒が夢と志を抱き、 させるための進路指導の確立	(1) キャリア教育充実と具体化 3年間の進路指導計画の更新 主体的に進路を実現する指導の充実	(1) ・個別のガイダンスを展開し学年全体・学校全体で課題を共有し、今後の進路指導に生かす。 ・センター試験に代わる共通テストへの移行に伴い、私立大学入試対応も含めたカリキュラムの見直しを進める。	(1) ・学校教育自己診断(生徒)「学校で将来の生き方について考える機会がある」肯定率 92% [ 90% ] ・カリキュラムを改訂し、教科書を選定する。	
	(2) チャレンジする力と粘り強さの育成 ア 行きたい大学へ進学するためのガイダンス実施 イ 「総合的な探究の時間」との連動	(2) ア・入学当初に高校生活や学習法について丁寧に説明するとともに、3点(起床・自宅学習開始時刻・就寝)を自律的にチェックし、良い学習習慣を確立させる。2学期段階での学習時間を伸ばす。 ・1年時に大学訪問し、大学のイメージを具体的ににする。 ・成績及び進路に関して教科担当者による面談を実施する。 イ・希望進路の調査を深め、夢や志を具体化する。	(2) ア・1年生2学期段階での平日・休日の自宅学習時間を確保させる。 平日60分・休日90分[新規] ・国公立大学現役受験者数40人[17人] ・国公立及び関西5大学への現役進学者数80人[61人] イ・「総合的な探究の時間」で進路の理解が深まった。 肯定的な評価50%[新規]	
2 確かな学力の育成と そのための教員の授業力の向上	(1) 学習意欲の向上 ア 必要な学力の獲得と授業第一主義の確立、自学自習の充実 イ 論理的思考力・課題解決力・自分の意見や考えをまとめて表現し伝える力の育成	(1) ア・より分かりやすい授業展開と自宅学習の促進で学力向上を図る。 ・自習室の活用を推進し、自学自習を支援する。 イ・論理的思考力・発信力・課題解決力を育成する。 ・授業の中で、ディベートやプレゼンテーションをはじめとした手法も用いて「考え、表現する力」を養成する。	(1) ア・学校教育自己診断(生徒)「学校の授業は分かりやすい」肯定率74% [ 72% ] イ・学校教育自己診断(生徒)「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」肯定率80% [ 77% ] ・「総合的な探究の時間」における第1学年の肯定的な評価85% [ 83% ]	
	(2) 授業改善 ア ICTを活用した効果的・効率的で興味を持てる授業の推進 イ 他校での先進事例の視察や、教育センター並びに教育産業等が主催する研修への参加 ウ 教員用タブレットPC導入によるICTの有効活用についての更なる研究	(2) ア・大学入試改革を把握し、変化に対応できるよう授業を改善する。 イ・Web等で全国の先進事例を学び、効率的に授業改善を進める。またその研修内容を発表する機会をつくり、共有を積極的に進める。 ウ・教員用のタブレットPCをどう活用できるかを研究する。	(2) ア・生徒向け授業アンケートの「授業に興味・関心を持てるようになった」肯定率80%[79%] イ・年2回の授業研究週間と研究協議の実施 ・アクティブラーナーを閲覧する教員20名以上[新規] ウ・教員用端末の有効的な活用について研修を実施する。	
	(3) 多面的・多角的な学習評価の工夫 新学習指導要領に対応した観点別評価の確立	(3) 全ての教科で観点別評価による「指導と評価の年間計画(シラバス)」を作成し、令和4年度以降の本格実施に備える。特に「主体的な学び」についての評価方法の確立についての研究を進める。	(3) ・観点別評価の試行を行い、体制を確立する。 内規の完成[新規単年度] ・観点別評価の中で特に主体的な学びをどう測るかについて研修を行う。[新規]	
3 心豊かでたくましい 人間性の育成	(1) 他者理解と多様性の尊重 ア 感性に訴えるプログラムの提供 イ 各種行事への積極的な参加 ウ 国際交流による国際的な視野の育成	(1) ア・人権教育推進委員会と学年・教科が連携し、生徒が主体的に学べるような感性に訴えるプログラムを提供する。 イ・学校行事・部活動・ボランティア活動・インターンシップ等への積極的な参加を図る。 ウ・夏季に10日間オーストラリアにて語学研修を継続実施し参加者が有意義と感じるプログラムを計画する。 コロナ禍で実施不可の時は、代替案を検討する。	(1) ア・学校教育自己診断(生徒)「学校の授業や行事で人権の大切さを学ぶ機会がある」肯定率80%[76%] イ・学校教育自己診断(生徒)「文化祭や体育大会は活発で楽しい」肯定率85%[83%] ウ・参加者アンケートの回答 「十分に満足」70%[R1:63% R2:中止] 「参加して自分が変わった」50%[R1:46% R2:中止]	
	(2) 情報リテラシー及び情報モラルの育成 ア 生徒が加害者にも被害者にもならないための対策の実践 イ 情報社会への対応	(2) ア・SNS等の活用について、教科「情報」の授業において、専門家を招聘して一年生に講義講演を行う。 イ・情報の専門性を持つ教職員を確保し、教職員の専門性を高めるための研修を催す。	(2) ア・一年生対象に専門家による講義講演を1回は実施する。 イ・新設された情報部から教職員向けの研修を実施する。	
	(3) 安心できる学校生活の確保と基本的生活習慣の定着・改善と規範意識向上 ア 教員の寄り添い姿勢充実による相談体制の充実 イ 基本的生活習慣の改善と定着	(3) ア・学年及び委員会など校内の組織及び外部機関や中学校との連携を強化して、生徒情報の共有に努め、生徒支援体制の充実を図る。 ・教育相談委員会を核とし、スクールカウンセラーの指導・助言のもと、ケース会議の開催などにより課題を抱える生徒を支援する。 イ・遅刻数を減少させるために生徒指導部からの発信を強化する。	(3) ア・学校教育自己診断(生徒)「悩みや相談に親身になって聞いてくれる先生がいる」肯定率75%[73%] イ・遅刻数の前年度より減少させる。 1783以下 [ 1783回 ]	

## 府立刀根山高等学校

4 地域に開かれた学校づくりと魅力ある学校づくり	<p>(1) 本校の教育活動の積極的な情報発信</p> <p>ア 在校生（1年生）の中学校訪問</p> <p>イ HPの充実による魅力の発信</p> <p>ウ 定期的なメール配信による保護者との連携強化</p>	<p>(1)</p> <p>ア・在校生（1年生）による中学校訪問を実施し、生徒の成長や生の声を提供して本校の魅力を発信する。</p> <p>イ・HPの更新頻度を上げ、本校の魅力を発信する。</p> <p>ウ・毎週末にメールマガジンを配信し、学校の様子を保護者にお知らせする。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・生徒（1年生）の出身中学校訪問を90%以上</p> <p>イ・学校教育自己診断（保護者）「学校のHPは充実している」70% [67%]</p> <p>ウ・メールマガジンを定期的に発行する。</p>	
	<p>(2) 地域との交流・連携の推進</p> <p>ア 地域の学校や保育園などとの交流・連携の推進</p> <p>イ 裏山を活用した環境教育の推進と地域交流</p>	<p>(2)</p> <p>ア・地域の学校や福祉施設等との連携事業や地域との防災行事などに取り組む。</p> <p>・生徒のボランティア活動をサポートする。</p> <p>イ・裏山等の刀根山の特徴を活かし地域連携を推進する。</p> <p>コロナ禍で実施不可の時は、HP等を利用して引き続き本校の魅力を発信する。</p>	<p>(2)</p> <p>ア・コロナ禍で、地域との交流連携の機会を持ちにくいのが、実施方法を工夫して模索する。</p> <p>イ・グラウンドなど体育施設の開放や裏山の活用を通じた地域交流を継続する</p>	
5 校務の効率化	<p>(1) 校務の効率化と教職員の健康増進</p> <p>(2) 各分掌、学年の年間業務の整理</p>	<p>(1)</p> <p>・全クラブとも部活動に係る活動方針を遵守し、年間における休養日を105日以上確保する。</p> <p>・諸会議の運営方法を見直し、教職員の長時間勤務の縮減を図る。</p> <p>(2)</p> <p>・年間業務を一覧表にして、業務の効率化を検討する。</p>	<p>(1)</p> <p>・教職員のストレスチェックの総合リスクの値を110以下に引き下げる。[111]</p> <p>(2)</p> <p>・年間業務を一覧表にして、学校経営委員会で検討する。</p>	